

○ 本校の概要

大田区立蒲田小学校は、羽田空港や多くの外国籍の方々も暮らす町として国際化の進む地域にあり、令和元年度は、通常学級17学級、特別支援学級(固定)3学級、日本語学級(通級)3学級を併設している。開校140周年を迎えた伝統のある学校として、地域の方々に支えられ、保護者も学校に協力的である。
また、平成15年度から、東京都教育委員会指定の人権尊重教育推進校として取り組んでおり、校内研究において各教科と人権課題、日常的な指導から人権教育を推進している。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	コメント	
プラン1 生きる未来社会を創造的に生	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成を図っている。	児童アンケートで「学校やクラスのために良いと思うことは、進んで行っていますか」に肯定的に回答した割合	4: 85%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの結果は75%であった。(535人からの回答)「共に生き、共に学ぶ」をテーマに人権教育を進め、各学級において日常的な指導や学級活動、各教科等で協力して問題を解決する児童の育成に努めてきたことが、「学校やクラスのために良いと思うことを進んで行う」結果に結びついた。 外国語教育指導員を活用し、授業だけでなく休み時間や給食等でも交流する時間を取った。自分から積極的に外国語教育指導員とコミュニケーションをとって楽しむ児童の姿が見られた。 専科教室も含め、ICT環境が整ったため、電子黒板やタブレットを使った授業が多くの教科で行われるようになった。今後は来年度より本格的に始まるプログラミング教育について準備を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の教育環境は(A)と考え、そして、他の人との行動も外国語指導員との対話も良(B)。蒲田小それ自身が国際的と思っていますので(B)。子供達の思いやりの心は(B)。 「共に生き、共に学ぶ」のテーマが効果的に発揮されていることから、児童間でのいじめがあるとは思われません。(朝遊びを通して。)ただし、もっとICT機器を活用して「4」にしてほしいです。 これからの子供達に最も必要とされるコミュニケーション能力に力を注いでくださっている姿勢はとても良い評価に値すると思います。しかしながら、人権教育はまだ課題が残る感じます。 蒲田地区は海外の方がとても多く、外国人だからと差別・区別をしないところはとても評価できることだと思います。 前回の人権教育推進発表から5年経ったので、あの時は秋頃だったと思います。時代も変わりましたので、令和らしい発表会となることを願っています。 あいさつのできる子供が多い。
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	児童アンケートで「学習中、自分から進んで発言しようとしていますか」に肯定的に回答した割合	3: 75%以上			
		体カテストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	2: 65%以上			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を実施する。	学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	1: 65%未満			
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	児童アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」に肯定的に回答した割合	4: 70%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの結果は61%であった。(535人からの回答)少人数で話し合う時間を授業に設けるなど、授業改善を進め、より多くの児童が自分の考えを話すことができるようにしている。 火曜、木曜、金曜の朝の時間を活用し、基礎・基本の定着を図るための指導を行った。国語科は漢字学習、算数科は「ステップ学習」を行い、基礎・基本が確実に定着するように取り組んでいる。 算数の基礎・基本の定着を目指し、62回の補習授業を行った。児童のつまずきに応じた教材を用意し、指導をした。 大田区学習効果測定の結果を基に授業改善推進プランを作成し、対話型の授業の推進に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人的に健やかな子供の教育が大切だと思います。対話型の授業は時間がかかると思います。そして、考える力の育成をお願いします。全体的に(B)。 第2項目の「児童・生徒、保護者に知らせる」の評価が「3」なのは、回数が増えれば「4」になると思います。国語の補習を増やしてほしいです。漢字だけでなく、「声を出して文章(新聞、作文、書籍)を読む訓練」を増やしてほしいです。日本人(日本にいる外国籍を含みます)は日本語を大切にしてください。 保護者の全員が、子供の到達度に関心が持てるような取組が必要と思われます。 学習面については差が開いてしまうことはあると思います。しかし意欲の向上に取り組むことはとても良いと評価しています。 学習の取組と結果は実っていないという結果になっています。やはり、基礎定着が確実に進んでいないという実情を改善しないと、先には進まないと思います。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	算数科は「ステップ学習」を行い、基礎・基本が確実に定着するように取り組んでいる。	3: 60%以上			
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	授業改善推進プランを、授業に生かす。	2: 50%以上			
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を実施する。		1: 50%未満			
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心を大きくみまします。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	児童アンケートで「自分にはよいところがあると思いますか」に肯定的に回答した割合	4: 85%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの結果は76%であった。(535人からの回答)学級活動や様々な行事を通して、自分の役割について考え、行動してきたことが、児童の自信につながっている。 小中一貫教育を進め、蒲田中学校、新橋小学校と三校スタンダードを行い、互いに情報交換をしている。 学校生活調査の活用、スクールカウンセラーによる第5学年児童全員の面接といった様々な手法により、児童の多面的な理解に努めている。 いじめ防止対策委員会を開設し、いじめ防止・早期発見に努めている。 子供家庭支援センター、スクールソーシャルワーカー、児童相談所、医療機関等と連携しながら、児童の問題行動や不登校に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育者の皆様のおかげで不登校にならず、温かく見守ってもらい感謝しております。 児童アンケートで「24%」の児童がネガティブ回答をしています。このネガティブ回答の背景を分析して(なぜ、OKの回答をしなかったのか?)その要因を改善すれば、次回のアンケート時には「100%回答」になると期待しています。ただし、「取組評価」が5項目中4項目が「4」なのに成果評価が「3」なのが疑問です。改善の余地があると思います。 三校スタンダードを行っていることはよいことだと思います。 現代の子供たち皆に自己肯定感を高めることはとても難しいです。これからの力を入れていただきたいと思っています。 近隣3校という狭い空間情報が「豊かな心の育成」へつながる部分です。区内には59校、さざ波を入れて60校ある特色を受け入れていくことで、より大きな改善につながると思います。この点は蒲田小の弱み点になってしまっているように思います。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	3: 75%以上			
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	2: 65%以上			
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。		1: 65%未満			
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	児童アンケートで「運動やスポーツをすることが好きですか」に肯定的に回答した割合	4: 85%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケートの結果は89%であった。(535人からの回答) 早寝・早起き・朝ごはん月間について、チェックシートをもとに各担当が声掛けを行い、家庭と連携して取り組んだ。 長縄週間、持久走週間等を設けて、休み時間に児童が体を動かすことができる取組を複数回設定したことが、児童のスポーツをすることが好き、楽しいという思いにつながっている。 体育・健康教育授業地区公開講座等、トップアスリートと直接触れ合う機会を年間2回設けたことで、児童のスポーツへの関心を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在朝食をとることが一番難しい問題です。主婦が仕事を持つと、これが大切ですね(B)。朝遊びで地域の参加が良(B)。 素晴らしいです。ぜひとも継続してほしいです。そして11%がOKをしなかった要因を分析して改善をお願いします。 朝食抜きのお子さんがあることを聞きますが、実情はいかがなものか心配です。 蒲田小の子供達は体を動かすことが大好きで、学校の成果が出ていて感じています。 体力向上は10年余りの課題がクリアできていない(高い壁)です。勉強にスポーツが含まれるのは今の時代普通のことですので、アスリートやトレーナーの方々からの声を聞いて反映したほうがよいと思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	3: 75%以上			
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。		2: 65%以上			
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。		1: 65%未満			
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	保護者アンケートで「学習環境が整っている」に肯定的に回答した割合	4: 92%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果は97%であった。(327人からの回答) 全校で算数科「問題を解決する児童の育成」の研修に取り組んだ。自力解決をもとに、自分の考えを伝え合う場を設定し、対話型の授業の実施を目指した。 各教科主任が都内各地で行われている指導教諭の模範授業を参観し、伝達講習を行った。各教員の指導力向上を図ることができた。 特別支援教育校内委員会を各学期に2、3回開いた。障害特性に応じた指導について検討したり、特別支援教育コーディネーターが情報提供をしたりした。 	<ul style="list-style-type: none"> 子供の考える力を伸ばしてほしい(B)。 素晴らしいです。ただし校内委員会等へ推進する「3」は残念です。校内委員会を確実に実施していないと映ります。特別支援学級に対する取組も一生懸命に先生方は行っていると思いますので、「3」の評価には違和感を覚えました。 現状、特別支援教育は欠かすことができず、そこに力を入れていただいていることは、とてもありがたいと感じています。 保護者アンケートは、日本人保護者だけの声ではないでしょうか。外国籍保護者も多い蒲田小の環境が反映されていないのではないかと感じます。蒲田小なら日本人保護者0%、外国籍保護者0%という内部資料を持っていても不思議ではありません。また、それを公表することで国際的校であるとの評価にもつながると思います。多文化共生と協力して、多言語での案内を早急に実現してください。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	3: 87%以上			
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	2: 82%以上			
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。		1: 82%未満			
プラン6 なつてとも学校・家庭・地域が一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	保護者アンケートで「学校からの情報で学校の様子がよくわかる」に肯定的に回答した割合	4: 92%以上	4	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果は92%であった。(327人からの回答) 学校支援地域本部の協力を得て、「朝遊び」どようひろば「読み聞かせ」「夏休みわくわくスクール」等を実施し、児童の活動を充実させることができた。 学校ホームページを月1回以上更新し、児童の活動の情報発信に努めた。 年3回の地域教育連絡協議会を、公開授業や集会等、実際に児童の活動を参観していただける時間に設定・実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域として全力で取り組んでいます(B)。 取組評価に「3」が2つあることはおかしいです。いずれの項目も、一生懸命に関係者はベストで対応していると思いますが、評価する先生方や保護者がその実態を知らないことによる評価と思われる。保護者にももっと積極的にこれらの項目の内容を知らせると92%が「100%」になると思います。 毎朝、校長先生はじめ先生方があやめ橋の交差点で旗振りをして児童の安全を見守る行動が1年以上続いていることに敬意を表するとともに、児童への愛を感じます。ありがとうございます。協力してくださっている地域の方、支援本部の方々には感謝いたしますが、保護者の方々の認識がどの程度あるか知りたいたいです。 開かれた学校のイメージが強く、地域との連携も強いに感じます。 外国籍の保護者など、在校児童保護者全員を対象にいないと思われず、学校ホームページは大田区の方針もあって全校統一化されてしまっただけで必須事項が削られてしまっているように感じます。各校の地域カラーをホームページに反映できるように、地道に区教委と検討ください。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。	学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	3: 87%以上			
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けよう努める。		2: 82%以上			
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。		1: 82%未満			